

ひたむきに生きる人のために

STORY BOOK 3

ストーリーブック・人 働く女性編 <http://shinkostory.tumblr.com/>



By シンコーストゥディオ

SHINKO
STUDIO

〒156-0055

東京都世田谷区船橋 1-14-12

シンコーストゥディオ株式会社

代表 米井 亜紀子

<http://www.shinkostudio.com>



*更にお読みになりたい方は、ホームページへインタビュー全文が記載されています。

母からの教え

「踏まれても踏まれても起き上がる、雑草のように生きなさい。」



あき
外資系企業コントローラー 白石 朗さん

*コントローラー：GM（ジェネラル・マネージャー）と共に日本と中国ディビジョンの業績をまとめ問題点を分析、予算を立てる。利益を上昇させ会社全体を常に進歩させるべくリードする仕事。



10年間のブランクの後パートから始めて今の仕事に

大学を出て、外資系の銀行に勤めました。出産を機に退職。その後10年ほど専業主婦をしました。税理士試験にチャレンジして会計事務所でパートを始めました。それをスタートにキャリアアップを図り、現在は外資系のメーカーで日本と中国ディビジョンを総括したコントローラーという仕事をしています。

二つ目のパート先である会計事務所のクライアントに、外資系企業のアカウンタント（財務・会計の専門家）の仕事の方がいました。その仕事ぶりを見て「これなら私でもできるかしら？」と思い、外資系リサーチ会社で働き始めました。その後今の会社に入社することでキャリアアップしました。

ピンチの時にこそ眠っている自分の能力が
むくむくっと起きあがってくる

最初の外資系の会社の面接では、英語はたいして要らないということだったので安心して入社しました。ところがいざ仕事を始

めると、初日から英語の電話、メールもどんどん入ってくる。会議も英語で、まさにちんぶんかんぶん。それでも、どうにか「こんなことですか？」とか「こんな感じでしょうか？」って聞いてみると、「うんうんそうそう。」「違う違う。」みたいな感じで、「やった！当たってた！」というような綱渡り状態の毎日。そんな繰り返しで外資系会社での仕事を再開しました。

しかし、その経験で人間の能力には計り知れないものがあると実感しました。必死にやれば、ピンチの時に眠っている自分の能力が、むくむくっと起きあがってくる。そういう力が人には眠っていると思います。

グローバル社会に必要なのは、本音で話すこと

海外の方と付き合うとき大事なのは、本音で話すという事ではないでしょうか。こびへつらうとか、そういったことをやめ、自分の持っているものを自信を持って言うという姿勢が大切だと思います。不要な自尊心は捨て、わからないことは「わからない」と言ってごまかさない。そうすることは自分にとっても楽だし、相手側もその人のことを知りたいと考えているものなのです。



K18WG ダイヤモンドリング -
カスタムオーダー
鳥の羽根のふわふわ感を感じられる
テクスチャーを地金の表面に入れて
います。ダイヤの絶妙な角度とつや
消しとの対比が美しい



アメジスト+タヒチケイパールの
ミックスネックレスに仕上げました



拘束されない拘泥しない

自分のモットーは「拘束されない。拘泥しない。」
「面倒くさくなく生きる。サッパリと生きたい。」です。周りの人たちとは分かってくれないかもしれません。でも、分かってくれなくてもいい。まあいいや。勝手にわからないでいなさい。そんな感じです。

母からの教え 「雑草のように生きなさい。」

「踏まれても踏まれても起き上がる雑草のような生き方をしなさい。」と母から言われ育ちました。母は銀座で美容院をやっていたので、お客様には色々な有名人や芸者さんがいました。ですから自分の生き方の上でしっかりした哲学がありました。母のことを思い出すと、親ってすごく責任が重かったんだと思います。

シンコーストウディオとの出会い

母の古い丸い珠のアメジストのネックレスを持って行ったんです。そうしたら、さっとデザインを提案してくれた。それで「センスいいな、ここ」と思いました。ずっと眠っていたこのアメジストのネックレスが着けられるようになった。その後、母のダイヤをペンダントに直したり、自分の婚約指輪を普段の仕事でも着けられるようなリングにしました。今は仕事の時にもいつも着けています。

ジュエリーとは自分の「満足感」

疲れてしまった時、この宝石のことを考えると、ちょっと樂しくなる。いやなことがある時でも、この宝石があるからいいやとなる。ジュエリーは人に見せたいというのもあるとは思うけど、どちらかというと自分の満足感のためでしょうか。だから、シンコーストウディオのジュエリーは通常の生活で着けるのがいいと思います。

Editor's Note

最初に出会った頃は、何となく不思議な雰囲気の方だなと思いました。自分を持っていらっしゃるというか、それでいて何だかふわっとしていて発する言葉が小気味よいのです。

今回初めて知ったお母様の言葉。「踏まれても踏まれても起き上がる雑草のような生き方をしなさい。」この人生哲学は圧巻です。この言葉を常に心に抱いて人生を歩んでいらっしゃったんだということがわかり、腑に落ちました。

おそらく日々の仕事は、実は本当に細かいことの積み重ねなのでないでしょうか？ご自宅でのインタビューの間も、PCはつけっぱなしで海外からのお仕事のメールがいつでもチェックできるようにしてありました。

「豪快さと繊細さ。」その相反するものを同時に持っている不思議。まずやってみる。そして「くじけないゾ！」という意気込みを感じます。その上でとても軽妙で楽しく人生を歩んでいます。

「面倒くさくなく。サッパリと生きる。」

まさに、それを体現している実にハンサムな女性でした。

シンコーストウディオ 代表 米井 垂紀子



「ひたむきに生きる人のために・
ストーリーブック」製作チーム
Photographer: 永井守
Art Director: 藤平富貴代
Web Designer: Hill 法子
Writer, Editor: 米井垂紀子